

感染症発生動向調査事業
各関係機関の長様

埼玉県衛生研究所長

感染症発生動向調査事業週単位情報の送付について（通知）

このことについて、別添のとおり送付いたします。
なお、今週は下記の内容を含んでいます。

記

1. 今週の県内情報
2. 今週の注目される定点把握対象疾患の推移（グラフ）
3. インフルエンザウイルス検出情報
4. 今週の全数把握対象疾患の報告数、累計
5. 今週の定点把握対象疾患の報告患者数、定点当たり報告数
6. 全国及び関東情報
7. Saitama Infectious Agents Surveillance Report
Topics（風しん）
8. 今週の流行状況

担当 埼玉県衛生研究所 感染症疫学情報担当
電話 0493 - 59 - 9325
FAX 0493 - 59 - 9613
e-mail p5349952@pref.saitama.lg.jp

感染症患者発生情報（週報）

埼玉県内情報 平成30年第11週（平成30年3月12日～平成30年3月18日）

今週の注目される疾患

図は次ページ以降に掲載

全数把握対象疾患では、一類及び二類（結核を除く）の届出はなかった。三類感染症は、腸管出血性大腸菌感染症4人の届出があった。四類感染症は、E型肝炎2人、A型肝炎2人、レジオネラ症2人の届出があった。五類感染症は、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症1人、後天性免疫不全症候群1人、侵襲性肺炎球菌感染症4人、梅毒7人、バンコマイシン耐性腸球菌感染症1人、百日咳8人の届出があった。

定点把握対象疾患では、**A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**(3.58 3.74：図1)の定点当たり報告数は2週連続で増加した。保健所別では、川口(7.71)、春日部(6.33)、越谷市(5.63)保健所管内からの報告が多い。年齢階級別では4歳及び5歳の報告が多い。**RSウイルス感染症**(0.44 0.45：図2)の定点当たり報告数は、前週と同水準であるが、過去4年の同時期より高い水準で推移しているため、今後の動向に注意が必要である。保健所別では、13保健所から報告があり、幸手(1.44)、川口(1.00)保健所管内からの報告が多い。**インフルエンザ**(8.39 5.88：図3、4)の定点当たり報告数は減少を続けているが、流行期の目安となる定点当たり報告数(1.00)を上回っている。保健所別では、幸手(9.14)、熊谷(8.93)、朝霞(7.65)保健所管内からの報告が多い。第8～11週の4週間(2月19日～3月18日)に採取されたインフルエンザ検体からは、B型(山形系統)が68件(57.1%)、AH3型が49件(41.2%)、AH1pdm09型が2件(1.7%)検出されている。**手足口病**(0.06 0.10)の定点当たり報告数は、前週と同水準であったが、熊谷(1.33)保健所管内で多い状況となっている。

眼科定点報告対象疾患では、**流行性角結膜炎**14人の報告があった。基幹定点報告対象疾患では、**無菌性髄膜炎**2人、**インフルエンザ(入院)**11人の報告があった。

<全数把握対象疾患の患者情報>

一類感染症 報告なし

二類感染症 報告なし(結核を除く)

三類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 4人(類型 患者3人、無症状病原体保有者1人、
血清型 O26 2人、O157 1人、O111 1人)

四類感染症 E型肝炎 2人(推定感染地域 国外1人、国内・国外不明1人)

A型肝炎 2人(推定感染地域 国内2人)

レジオネラ症 2人(病型 肺炎型2人)

五類感染症 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1人(菌種 *Enterobacter* sp)

後天性免疫不全症候群 1人(病型 無症状病原体保有者)

侵襲性肺炎球菌感染症 4人

梅毒 7人(病型 早期顕症 期5人、早期顕症 期1人、
無症状病原体保有者1人)

バンコマイシン耐性腸球菌感染症 1人(菌種名 *Enterococcus faecium*)

百日咳 8人

1 この情報に関する御質問・御意見等がございましたら、下記まで御連絡ください。

衛生研究所 感染症情報担当者会議(感染症疫学情報担当) TEL: 0493-59-9325 FAX: 0493-59-9613

e-mail: p5349952@pref.saitama.lg.jp URL: <http://www.pref.saitama.lg.jp/b0714/surveillance/index.html>

2 全国の感染症発生動向に関する情報は、国立感染症研究所の感染症疫学センターホームページ(URL: <http://www.nih.go.jp/niid/ja/from-idsc.html>)で御覧になれます。

<今週の注目される定点把握対象疾患の推移>

図1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

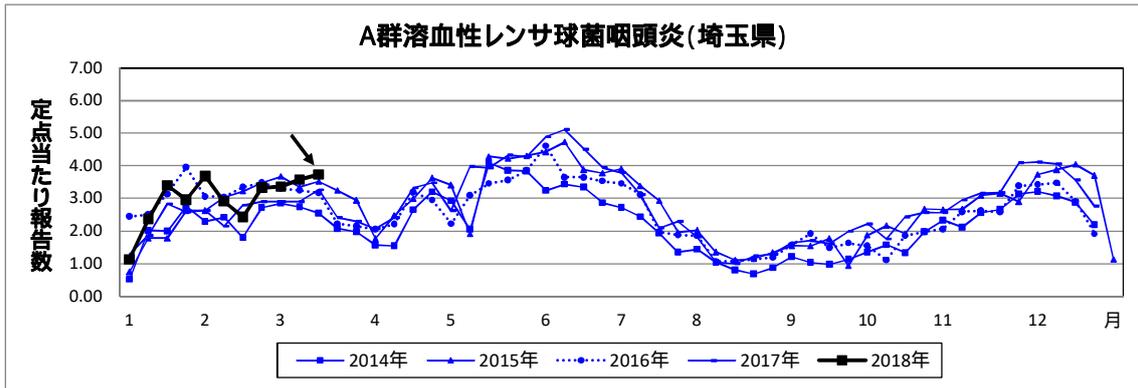


図2 RSウイルス感染症

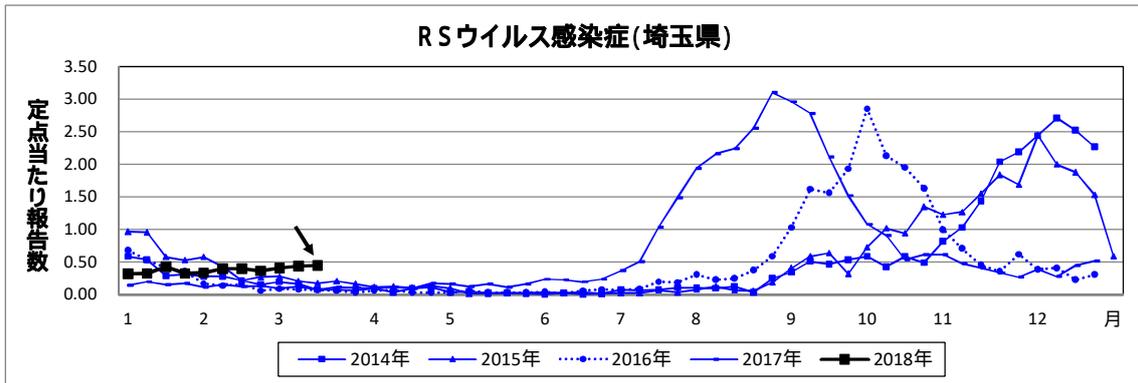
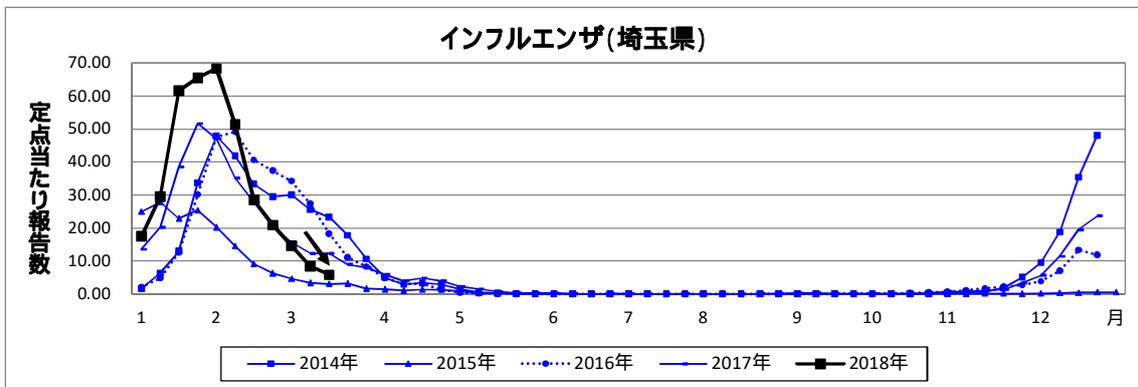


図3 インフルエンザ



<インフルエンザウイルス検出情報>

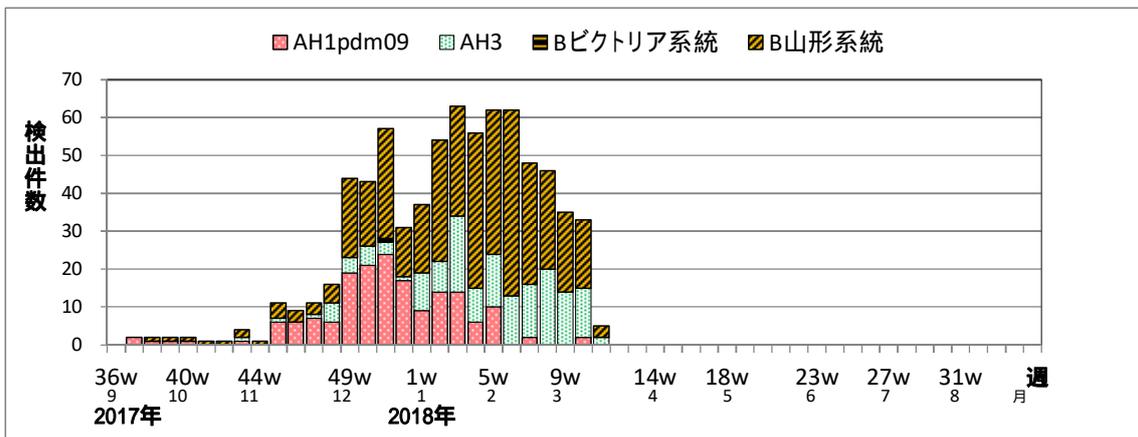


図4 AH1pdm09、AH3、B(ビクトリア系統、山形系統)の週別検出数

詳細なウイルスの検出状況は<http://www.pref.saitama.lg.jp/b0714/surveillance/srv-flu.html>をご覧ください。

感染症発生状況(全数把握対象疾患)
(第11週)

(2018年3月20日 15:00集計)

	今週 届出	累 計	2017年 累計		今週 届出	累 計	2017年 累計
一類感染症							
エボラ出血熱				ベスト			
クリミア・コンゴ出血熱				マールブルグ病			
痘そう				ラッサ熱			
南米出血熱							
二類感染症							
急性灰白髄炎				中東呼吸器症候群(MERS)			
結核*	-	-	1301	鳥インフルエンザ(H5N1)			
ジフテリア				鳥インフルエンザ(H7N9)			
重症急性呼吸器症候群(SARS)							
三類感染症							
コレラ		1		腸チフス		1	3
細菌性赤痢		3	7	パラチフス			
腸管出血性大腸菌感染症	4	9	246				
四類感染症							
E型肝炎	2	7	19	東部ウマ脳炎			
ウエストナイル熱				鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く)			
A型肝炎	2	3	12	ニパウイルス感染症			
エキノコックス症				日本紅斑熱			
黄熱				日本脳炎			
オウム病				ハンタウイルス肺症候群			
オムスク出血熱				Bウイルス病			
回帰熱				鼻疽			
キャサヌル森林病				ブルセラ症			1
Q熱				ベネズエラウマ脳炎			
狂犬病				ヘンドラウイルス感染症			
コクシジオイデス症				発しんチフス			
サル痘				ポツリヌス症			
ジカウイルス感染症				マラリア		1	1
重症熱性血小板減少症候群				野兔病			
腎症候性出血熱				ライム病			
西部ウマ脳炎				リッサウイルス感染症			
ダニ媒介脳炎				リフトバレー熱			
炭疽				類鼻疽			
チクングニア熱				レジオネラ症	2	10	99
つつが虫病		1	2	レプトスピラ症			2
デング熱			12	ロッキー山紅斑熱			
五類感染症							
アメーバ赤痢		9	53	水痘*		1	12
ウイルス性肝炎(E型・A型を除く)		1	11	先天性風しん症候群			
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	12	57	梅毒	7	33	234
急性脳炎		12	45	播種性クリプトコックス症		1	3
クリプトスポリジウム症				破傷風			2
クロイツフェルト・ヤコブ病			4	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症			
劇症型溶血性レンサ球菌感染症		9	22	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1	1	12
後天性免疫不全症候群	1	5	35	百日咳	8	45	-
ジアルジア症				風しん		2	6
侵襲性インフルエンザ菌感染症		2	21	麻しん		5	5
侵襲性髄膜炎菌感染症			2	薬剤耐性アシネトバクター感染症		2	8
侵襲性肺炎球菌感染症	4	43	130				
指定感染症	該当疾患は無し						

水痘*：患者が入院を要すると認められるものに限る。

ウイルス性肝炎(E型・A型を除く)再掲	B型	C型	D型	その他
累計		1		

累計は診断日で集計
*2017年累計は暫定値です。
*結核は月単位で集計、別に掲載します。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (第11週 平成30年3月12日～平成30年3月18日)

	合計		-6ヵ月		12ヵ月		1歳		2歳		3歳		4歳		5歳		6歳		7歳		8歳		9歳		10-14		15-19		20-29		30-39		40-49		50-59		60-69		70-79		80～					
	1,511	3	16	69	61	79	99	127	104	81	55	77	189	61	79	105	110	84	57	27	28																									
インフルエンザ #1	74	9	21	21	9	7	6	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-				
RSウイルス感染症	46	1	2	12	7	3	9	7	2	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-				
咽頭結膜熱	610	-	-	27	36	38	95	96	82	70	48	37	53	5	23																															
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	846	1	33	74	74	83	96	84	64	66	39	49	85	15	83																															
感染性胃腸炎	52	-	1	3	1	3	4	4	4	7	6	10	9	-	-																															
水痘	16	-	-	6	2	5	1	1	1	-	-	-	-	-	-																															
手足口病	10	-	-	-	1	1	2	2	2	1	1	-	-	-	-																															
伝染性紅斑	58	-	11	36	7	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-																															
突発性発しん	2	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-																															
ヘルパンギーナ	19	-	-	-	-	1	5	2	3	3	-	1	2	1	1																															
流行性耳下腺炎	合計	-6ヵ月	12ヵ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～																										
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流行性角結膜炎	14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	3	5	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
細菌性髄膜炎 #2	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～																													
無菌性髄膜炎	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
クラミジア肺炎 #3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
(入院)インフルエンザ	11	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		

表中の数値は各定点からの報告数 (- : 0)

#1 鳥インフルエンザを除く

#2 真菌性を含む

#3 オウム病を除く

全国・関東情報

第9週 (2月26日～3月4日)

平成30年3月22日

<全国情報>

インフルエンザ: 定点当たり報告数は第6週以降減少が続いている。都道府県別の上位3位は北海道(27.19)、富山県(25.56)、秋田県(25.48)である。基幹定点からのインフルエンザ入院サーベイランスにおける報告数は1,093例と前週と比較して減少した。都道府県別では47都道府県から報告があり、年齢別では0歳(32例)、1～9歳(151例)、10代(33例)、20代(12例)、30代(12例)、40代(26例)、50代(45例)、60代(100例)、70代(221例)、80歳以上(461例)であった。

小児科定点報告疾患(主なもの): RSウイルス感染症の定点当たり報告数は増加した。都道府県別の上位3位は山口県(0.88)、鹿児島県(0.84)、富山県(0.83)、福岡県(0.83)である。咽頭結膜熱の定点当たり報告数は減少した。都道府県別の上位3位は鹿児島県(0.98)、山形県(0.83)、三重県(0.73)である。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は減少した。都道府県別の上位3位は石川県(5.79)、山形県(4.83)、北海道(4.68)である。感染性胃腸炎の定点当たり報告数は2週連続で増加した。都道府県別の上位3位は大分県(12.58)、宮崎県(10.36)、広島県(9.85)である。水痘の定点当たり報告数は第5週以降減少が続いている。都道府県別の上位3位は沖縄県(0.47)、石川県(0.45)、愛媛県(0.41)である。手足口病の定点当たり報告数は増加した。都道府県別の上位3位は宮崎県(1.03)、沖縄県(0.88)、長崎県(0.77)である。伝染性紅斑の定点当たり報告数は2週連続で増加した。都道府県別の上位3位は富山県(0.31)、岩手県(0.30)、石川県(0.24)である。流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は減少した。都道府県別の上位3位は宮崎県(0.75)、鹿児島県(0.47)、群馬県(0.35)である。

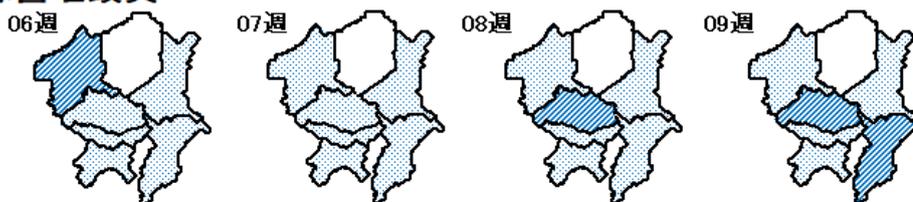
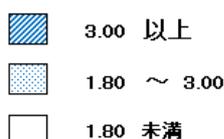
基幹定点報告疾患: マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は3週連続で減少した。都道府県別の上位3位は石川県(1.20)、愛媛県(0.67)、秋田県(0.63)である。感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)の定点当たり報告数は第4週以降増加が続いている。33都道府県から149例報告があり、年齢別では0歳(7例)、1～4歳(90例)、5～9歳(39例)、10代(7例)、30代(2例)、60代(1例)、70歳以上(3例)であった。

Infectious Diseases Weekly Report Japan 2018年 第9週(2月26日～3月4日): 通巻第20巻 第9号 より

<関東情報>

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は、埼玉県(3.36)、千葉県(3.21)からの報告が多い。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



平成30年 09週

		全国	関東地域	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県
インフルエンザ #1	報告数	86,179	21,775	2,114	1,191	1,672	3,725	3,263	4,988	4,822
	定点当たり	17.42	14.34	17.62	15.67	19.00	14.61	15.25	12.05	13.74
RSウイルス感染症	報告数	1,191	250	11	12	10	67	23	75	52
	定点当たり	0.38	0.26	0.15	0.25	0.19	0.41	0.17	0.29	0.24
咽頭結膜熱	報告数	870	174	26	10	20	25	37	31	25
	定点当たり	0.28	0.18	0.35	0.21	0.37	0.15	0.27	0.12	0.11
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	報告数	8,232	2,562	185	63	135	544	433	685	517
	定点当たり	2.60	2.69	2.47	1.31	2.50	3.36	3.21	2.62	2.36
感染性胃腸炎	報告数	15,288	4,221	261	91	230	968	513	1,321	837
	定点当たり	4.84	4.42	3.48	1.90	4.26	5.98	3.80	5.06	3.82
水痘	報告数	655	235	13	10	8	46	33	78	47
	定点当たり	0.21	0.25	0.17	0.21	0.15	0.28	0.24	0.30	0.21
手足口病	報告数	380	35	-	-	10	4	1	6	14
	定点当たり	0.12	0.04	-	-	0.19	0.02	0.01	0.02	0.06
伝染性紅斑	報告数	206	93	-	5	3	13	9	18	45
	定点当たり	0.07	0.10	-	0.10	0.06	0.08	0.07	0.07	0.21
突発性発しん	報告数	1,058	316	13	12	30	48	42	100	71
	定点当たり	0.33	0.33	0.17	0.25	0.56	0.30	0.31	0.38	0.32
ヘルパンギーナ	報告数	37	9	-	-	1	2	-	6	-
	定点当たり	0.01	0.01	-	-	0.02	0.01	-	0.02	-
流行性耳下腺炎	報告数	389	93	4	1	19	15	12	17	25
	定点当たり	0.12	0.10	0.05	0.02	0.35	0.09	0.09	0.07	0.11
急性出血性結膜炎	報告数	8	3	-	-	-	1	1	1	-
	定点当たり	0.01	0.01	-	-	-	0.02	0.03	0.03	-
流行性角結膜炎	報告数	413	145	7	6	20	17	17	10	68
	定点当たり	0.59	0.70	0.41	0.50	1.33	0.41	0.49	0.27	1.33
細菌性髄膜炎 #2	報告数	9	2	-	-	-	-	1	-	1
	定点当たり	0.02	0.02	-	-	-	-	0.11	-	0.09
無菌性髄膜炎	報告数	5	2	-	-	-	1	-	-	1
	定点当たり	0.01	0.02	-	-	-	0.10	-	-	0.09
マイコプラズマ肺炎	報告数	54	9	3	2	2	1	1	-	-
	定点当たり	0.11	0.11	0.23	0.29	0.22	0.10	0.11	-	-
クラミジア肺炎 #3	報告数	4	2	-	-	-	2	-	-	-
	定点当たり	0.01	0.02	-	-	-	0.20	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	報告数	149	14	-	-	2	1	1	5	5
	定点当たり	0.31	0.17	-	-	0.22	0.10	0.11	0.20	0.45

#1 鳥インフルエンザを除く

#2 真菌性を含む

#3 オウム病を除く

(-:0.00)

風しん

風しんは、発熱、発疹、リンパ節腫脹を特徴とする風しんウイルスによる感染症です。妊娠 20 週頃までに感染すると、白内障、難聴等を特徴とする先天性風しん症候群（CRS）の児が生まれる可能性があります。現在、早期に CRS の発生をなくすことと、2020 年度までに風しんを排除することが目標となっています。

風しんは、感染症法上は全数把握対象疾患であり、昨年の感染症法施行規則及び「風しんに関する特定感染症予防指針」の改正により、本年 1 月 1 日から感染症法に基づく患者発生届出期限は「診断後 7 日以内」から「直ちに」へ変更となりました。また、届出の根拠となる病原体診断には、分離・同定による病原体の検出 PCR 法による遺伝子の検出 抗体の検出（IgM 抗体の検出、ペア血清での抗体陽転又は抗体価の有意上昇）がありますが、類似の症状を示す疾患から風しんを正確に見分けるため、今後は原則として全例に の遺伝子検査を実施することとなりました。

2012 年から 2017 年までの感染症発生動向調査における風しん患者報告数及び埼玉県衛生研究所で行った遺伝子検査での風しんウイルスの検出数（CRS 除く）を表 1 に示しました。2013 年に大きな流行があり、埼玉県でも患者報告数は過去 6 年間で最多でしたが、2014 年以降は 10 件以下になっています。ワクチン株を除いた風しんウイルスの検出数も、患者報告数の増減を反映し、2013 年が最多でした。風しんウイルスは診断名「麻しん」の検体から検出されることがあるため「麻しん」検体も含めると、2012 年には 21 件（12 症例）、2013 年には 36 件（19 症例）検出され、2014 年以降は、2014 年及び 2016 年にそれぞれ 2 件（1 症例）ずつの検出でした。

表 1 風しん患者報告数及び検査の状況

年	患者報告数	患者報告数	風しんウイルス検出数（）内：症例数		
	全国	埼玉県	診断名「風しん」	診断名「麻しん」	計
2012	2386	97	2(2)	19(10)	21(12)
2013	14344	608	12(9)	24(10)	36(19)
2014	319	9	0	2(1)	2(1)
2015	163	8	0	0	0
2016	126	4	0	2(1)	2(1)
2017	93	6	0	0	0

検出された風しんウイルスの遺伝子型は表 2 のとおりです。風しんウイルスの遺伝子型は現在 13 種類に分類されていますが、2011 年以降、世界的に、また国内でも検出された風しんウイルスは 2B が最も多く、次いで 1E でした¹⁾。埼玉県衛生研究所の遺伝子検査でも同様の結果でした。

表2 検出された風疹ウイルスの遺伝子型（症例数）

	2B	1E	型別未確定	計
2012	11	1	0	12
2013	13	1	5	19
2014	0	0	1	1
2016	1	0	0	1

全国の一般成人を対象とした2015年度の風しん抗体保有状況調査²⁾によると、風しんに対して十分な抗体を持たない「HI抗体価8未満」の割合は図1のとおりでした。男性の30代～50代の年齢群で、1割以上の方が風しんに対して十分な抗体を持たないことが示されました。2012年から2013年の流行の際も、この年代の男性が多く発症しています³⁾。

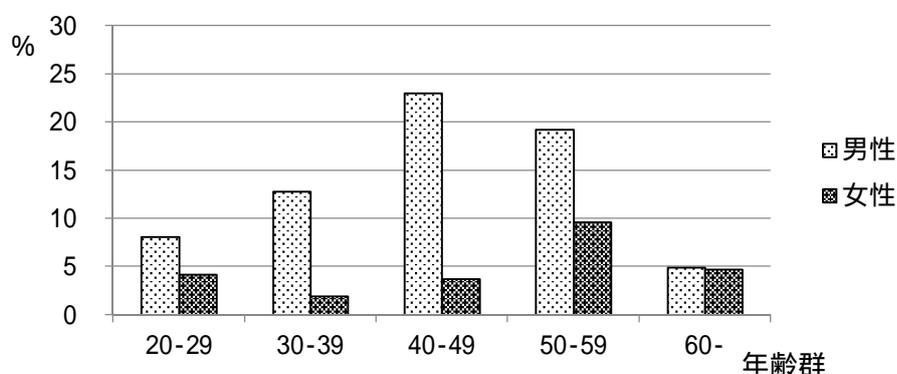


図1 風しん HI 抗体価 8 倍未満の割合
(平成 27 年度感染症流行予測調査報告書より)

風しんの排除にいたる過程では、検出された風しんウイルスが国外から持ち込まれたものであるかの確認や感染拡大状況の調査等が必要となり、遺伝子検査の実施が重要となります。

医療機関の先生方には、風しん・麻しんを診断した際には、速やかな届出と急性期検体（咽頭拭い液、血液、尿）の採取にご協力くださいますようお願いいたします。

1) 国立感染症研究所感染症疫学センター，海外の風疹の状況と風疹ウイルス遺伝子型の動向 病原微生物検出情報 (IASR) Vol.36 p135-137

2) 厚生労働省健康局結核感染症課/国立感染症研究所感染症疫学センター，平成 27 年度(2015 年度) 感染症流行予測調査報告書 平成 30 年 2 月

3) 国立感染症研究所感染症疫学センター，風疹・先天性風疹症候群 2015 年 6 月現在 病原微生物検出情報 (IASR) vol.36 p117-119

総合トップ > 健康・福祉 > 感染症情報センター > 感染症発生動向調査 > 感染症発生動向調査 2018年 > 感染症の流行状況 2018年 第11週

感染症発生動向調査 2018年

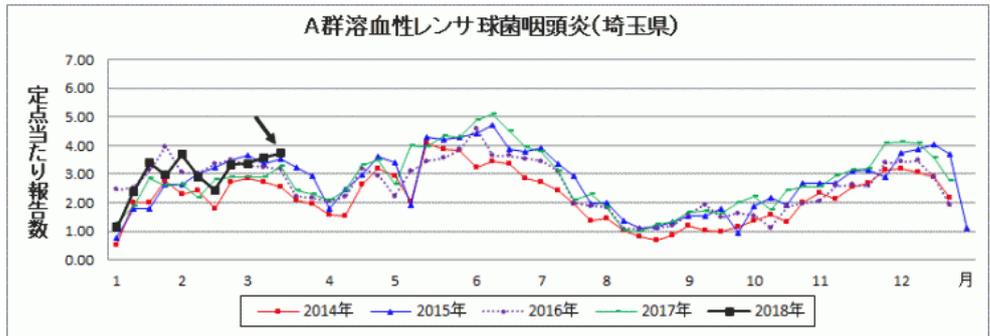
- [感染症の流行状況 2018年 第1週](#)
- [感染症の流行状況 2018年 第2週](#)
- [感染症の流行状況 2018年 第3週](#)
- [感染症の流行状況 2018年 第4週](#)
- [感染症の流行状況 2018年 第5週](#)
- [感染症の流行状況 2018年 第6週](#)
- [感染症の流行状況 2018年 第7週](#)
- [感染症の流行状況 2018年 第8週](#)
- [感染症の流行状況 2018年 第9週](#)
- [感染症の流行状況 2018年 第10週](#)

感染症の流行状況 2018年 第11週

2018年第11週（平成30年3月12日～3月18日）の要点 平成30年3月22日

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は、2週連続で増加しました。外出後の手洗い・うがいとともに、十分な休養をとるよう心がけてください。また、お子さんの体調がすぐれない時は、医療機関に電話で相談の上、早目に受診してください。

- [インフルエンザに関する情報の掲載ページへ](#)
- [麻疹及び風しんに関する情報の掲載ページへ](#)



感染症流行状況

疾患	推移	流行状況	疾患	推移	流行状況
インフルエンザ	↓	★★	伝染性紅斑(りんご病)	→	★
RSウイルス感染症	→	★	突発性発しん	→	★
咽頭結膜熱(プール熱)	→	★	ヘルパンギーナ	→	★
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↑	★★★	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	→	★
感染性胃腸炎	↓	★	急性出血性結膜炎	→	★
水痘(みずぼうそう)	→	★	流行性角結膜炎	↓	★
手足口病	↑	★			

*1.推移、流行状況は、県内全域の傾向です。*2.推移は2週間前からの傾向を示します。(→:増減無し、↑:増加、↓:減少) *3.流行状況は今週の流行を示します。(小さい←★、★★、★★★→大きい)

疾患名をクリックすると、各疾患の流行状況のグラフがご覧いただけます。

全国の感染症発生動向状況については、国立感染症研究所のホームページ「[感染症疫学センター](#)」でご覧になれます。

この情報は毎週水曜日に更新する予定です。ただし、祝日等により変更の場合もあります。



埼玉県のマスコット コバトン